

虚子記念文学館投句特選句

・令和三年四月

稲畑汀子 選

花に伏す友への祈り届けよと

兵庫 涌羅由美

花に発ち花に着く駅来て館へ

大阪 徳岡美祢子

さくらにも余生と言へる美しさ

兵庫 和田華凜

春惜む庭の水音の細きにも

新潟 安原 葉

虚子館へ散る花を浴び惜みつつ

石川 辰巳葉流

咲き満ちて風に黙解く桜かな

大阪 辻 昌子

散る花の止つてをりぬ花の下

兵庫 川村ひろみ

鐘の音は福音白き日曜日

兵庫 武田奈々

(青少年)

まだ都会にもゐる野鳥古巣かな

大阪 西尾浩子

一人旅虚子の館に春疾風

米国加州 福井雲府

入選句・令和三年四月

花と散る老いの仄かな恋心	兵庫	槌橋眞美	小島めく大和三山夕霞	兵庫	山田佳乃
この花下に句心滾る朝かな	兵庫	前田容宏	新しき友の俳磚花の雨	大阪	辻田あづき
和の庭にあつけらかんとチューリップ	滋賀	磯田ひろみ	待たされてゐるを忘れし春の雲	兵庫	永沢達明
遊亀さんの写し絵ぬくし原画展	兵庫	山本康子	やすらうて皆歌人となる桜	兵庫	岸川佐江
初花の寄る辺となりし水明り	兵庫	小林志乃	どこまでも白き山麓花林檎	兵庫	高橋純子
春雷や胸の動悸のたまりかね	大阪	徳永由起子	落花まで見応へのある山の寺	兵庫	深尾真理子
夕桜主の逝きたる門の内	大阪	田邊育子	よく笑ふ妊婦の混じるイースター	兵庫	辻 桂湖
館までの五分は愉し青き踏む	兵庫	山之口倫子	春の月ならばひと駅歩かうか	兵庫	池田雅かず
駅毎に移ろふ花のある旅路	石川	辰巳昌彦	この日だけ菩薩になりて練供養	奈良	堀ノ内和夫
色尽くすもの散るものに初蝶来	大阪	石橋玲子	虚子を抱く花ふところの虚子忌かな	京都	杉森大介
背割堤川より長き花の道	大阪	山下幸典	憧れのキャンパスに今春の空	兵庫	小杉伸一路
虚子の書に春塵寄せぬ展示室	兵庫	玉手のり子	今年又マスクして見る桜かな	奈良	好川忠延
散り惑ふ花の光に包まれぬ	兵庫	吉村玲子	悲しみの深さに溺れ朧の夜	兵庫	岩水ひとみ
ホトトギス飾る原画に触れぬくし	兵庫	西村正子	葉桜を愛でる我が身に笑浮ぶ	兵庫	影山貴彦
黄桜の一片たりも零さざり	兵庫	黒田千賀子	聖火リレー拍手高まる春爛漫	奈良	芳林淳子
夏日めく空へ魚のジャンピング	京都	宮本幸子	橋急ぎわたりし裾に花の雨	兵庫	山岸正子
福音は伝へたきもの蝶せせる	兵庫	上岡あきら	花散らす雨の朝となりにけり	大阪	綿谷千世子
汀子邸名乗り上げたり真竹の子	兵庫	小柴智子	是よりは京へ三里や山桜	兵庫	入谷千恵子
ふるさとの空を自在に初燕	兵庫	高野さち	春の星明るき未来への讃歌	兵庫	金田八江子
初桜コロナを縫つて吉野まで	兵庫	宮本露子	遠景に紛ふことなき山つつじ	兵庫	伊藤秀子
のどけしや虚子の金庫は開けしまま	兵庫	藤井啓子	会ひたしとふと思ふ人春の星	兵庫	山口弘子
ビル街の四角潤す春の月	兵庫	齊木富子	七回忌終へし仏間や春の星	兵庫	大西美知子
轉を零して影を落としけり	兵庫	山崎貴子	花過ぎて冷残りゐる虚子忌かな	兵庫	三村純也
童心を捧げし白き日曜日	兵庫	塚本武州	あたたかや海とつながり芦屋川	兵庫	長安悦子
白衣の主日ホスピスの窓あかり	兵庫	武田優子	雀の子ちゅんちゅんちゅんと頭垂る	兵庫	浅井博志
足元に風そよそよと半仙戯	兵庫	近藤ゆき	初桜確と見ぬ間に二分三分	兵庫	小川孝子
人恋し单身寮の古巢かな	兵庫	鈴木ひとみ	花曇り見知らぬ坂を登りをり	神奈川	平野孤舟
黄桜のもう紅いろとなる朝	鳥取	前田 千	風緩む木香薔薇の文学館	兵庫	西村みどり
			業平橋信号長し春の雨	兵庫	阿曾宏之

開け放つ納屋をくぐりてつばくらめ 兵庫 キートスばんじょうし

とりどりの表紙絵裏絵春灯下 兵庫 奥田好子

図書館を吹き抜けてゆく春の風 兵庫 高市敦之

聞き流す言の葉エイプリルフル 石川 伊東弥太郎

俳磚の藍滲みゆく春の暮 神奈川 小堀公美子

頸擡げ匂ひ利く犬春の風 東京 宮村土々

花明かり影ほんのりといってくる 神奈川 金子三奈乃

白藤やそよぐともなく夕間暮れ 埼玉 土井洋子

新緑をゆけばテニスの球の音 神奈川 進藤剛至